

新宅 Shintaku Miho 美保



英語 大好きになあれ！
遊びながら学べる低学年世代は
最もコミュニケーション上手

当別町学校支援ボランティア



西当別小学校での「国際理解」授業

「世界の国の人と、それぞれになれたい、
外国の人と、つなぐために、
みんなが笑顔になれたい！」
みんなが笑顔になれたい、
みんなが笑顔になれたい！」

子どもの力を伸ばすために

23年度より小学校5年生からの英語の授業が始まります。高校・大学で英語と国際コミュニケーションを教える中で、英語嫌いの生徒の多さに驚きました。英語の楽しさ、学ぶ意義を見出せないまま「勉強に追われた」結果、外国人に対しても8割の生徒が引いてしまいます。そうなる前に楽しく英語と出会って欲しい！そう願って地域の子ども達と関わってきました。

我家では2年前に長女の交換留学相手のアメリカ人のゴーディ君を半年間、家族に迎えました。「子ども達が英語と世界にふれるチャンス！」と息子が通う西当別小学校に交流授業を何回かつくって頂きました。

その時子ども達の目は輝き、「英語を話せるようになりたい！」と。

当時、小学校では4年生以下の国際理解（英語）の時間は年1時間。「何か自分に出来ることは」と、西当別小学校にお願いし、朝の10分間の読書の時間をいただいて英語の読み聞かせボランティアを始めました。20年度からは町の学校支援地域本部のボランティアとして1年生から4年生までの各クラスに年1回、国際理解の時間を受け持っています。この2年間で「英語大好き！」の笑顔が見られる様になり本当に嬉しいです。

地球っ子になあれ・・・

英語が使えるということ、異文化を持つ人とお互いの文化や生活を伝えあう事ができ、友達になれるということ。その友達の国を理解したり、やがて世界との繋がりを持つということ。こうして考えると

小学校英語は「平和教育」の原点ではないでしょうか。

東京でアジアの、札幌でJICAの途上国の方々と親しくなり、その中で「英語を話せるだけではなく、国を越えて友情を育める「地球っ子」を育てることが重要！」と気付かされました。

低学年は楽しく外国語を学べ、心の壁なく外国人と友達になれる適期です。学校教育の中でもこういう機会が増えることを願っています。長女は高校時代、町の短期海外研修の経験をきっかけに、この1月から「世界をつなぐ教育者になりたい」とニューヨーク州立大学で学んでいます。当別の町から「地球っ子」がたくさん育つことが夢ですね。そのためにお手伝い出来るのは、とても嬉しいです。

新宅美保（スウェーデンヒルズ在住）